

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人すばる		
事業所名	特別養護老人ホーム醍醐 【事業所番号：0691200091】		
介護サービスの種類	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	定員数	29
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>介護ロボット          [製品名]          眠り SCAN 10台          眠り SCANeye 2台          [導入時期] 令和3年2月1日</p> <p>通信環境整備          [製品名]          無線LANアクセスポイント 18台 WAPM-1266R          POE-HUB(WAPM-1266R 対応) 5台 BS-GS2005P          無線LAN集中管理ソフトウェア 1式          モバイル端末 (KX-Z817) 2台          [導入時期] 令和3年2月1日</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p>1. 介護ロボット          【現在の問題点】          ・夜間、ショートステイ利用者等情報が少ないご利用者様の突発的な離床行動形跡があることに対してご利用者様の安全に不安を感じ精神的負担となっている          ・ご利用者様の快適な睡眠を損なわない適切タイミングでのトイレ誘導          ・夜勤時、複数のナースコール呼び出しに対する対応の優先順位をどうしたらいいか精神的負担となっている          ・夜勤時、離床センサーの寝返り等の誤報によって不要な訪室を行わざる負えない</p> <p>【導入台数の妥当性】          眠り SCAN:長期利用者の生活改善対象者またはコール回数が多いご利用者様10名に使用予定          眠り SCANeye:眠り SCAN 使用予定者のうち、特に不穏症状(夜間徘徊、不潔行為等)を呈している2名に使用予定          モバイル端末:1階フロアで1台、2階フロアで1台の使用予定</p>		

**【職員との導入意義の共有】**

- ・夜間、ご利用者様の突発的な離床行動形跡があることに対してご利用者様の安全に不安を感じ精神的負担となっている
- ・ご利用者様の快適な睡眠を損なわない適切タイミングでのトイレ誘導
- ・夜勤時、複数のナースコール呼び出しに対する対応の優先順位をどうしたらいいか精神的負担となっている
- ・夜勤時、離床センサーの寝返り等の誤報によって不要な訪室を行わざる負えない

以上のように職員より解決が難しい【現在の問題点】が報告されており解決策として介護ロボット活用に伴い、パラマウント社製指定の全館安定した電波環境にするための要望が議論されている

**2. 通信環境整備**

**【現在の問題点】**

・眠り SCAN (パラマウント社製) の導入にあたり施設内、主に居室のと通信を行うにあたり、無線 LAN が必須であるが、居室との無線遮蔽により電波が各部屋まで行き届かない状況である。

・全館まで無線が届かない状況であるため、モバイル端末を導入して、職員が随時入居者の状況を施設内において確認・情報共有するにも困難な状況である。

**【導入台数の妥当性】**

・眠り SCAN (パラマウント社製) 資料にある指示通り設置することと、通信不良が無いようにするべく、18 台必要との設置依頼業者からの結果を受けております。

・職員が、眠りスキャンデータを随時確認するにも、施設内の各所において電波不良が起こることの無いように配慮する必要がある。

・無線 LAN の電波の各所にて電波不良が起きた場合、問題解決が困難な場合、お互いのアクセスポイントの電波で、干渉を起こす場合など、想定しえない電波障害が生じる事が懸念される。そのため安定した電波状況の確保を管理すべく初年度分だけでもの管理集中ソフトウェアの導入をする必要がある。

・パラマウント社製 資料にある通り 「眠り SCAN」と無線 LAN アクセスポイントとの電波強度レベル・65db を下回らないようにして、電波状況の安定性を確保する必要がある。

<p>達成すべき目標と導入すべき機器等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間、利用者様の突発的な離床行動に対する職員の不安解消</li> <li>・ご利用者様の快適な睡眠を損なわない適切なタイミングでトイレ誘導ができること</li> <li>・夜勤時、複数のナースコール呼び出しに迷わず適切に対応できること</li> <li>・夜勤時、離床センサーの寝返り等の誤報による不要な訪室を行わない</li> </ul> <p>○2年目</p> <p>1年目の活用で発生する新たな問題を新しい計画で解決すること</p> <p>○3年目</p> <p>2年目の活用で発生する新たな問題を新しい計画で解決すること</p> <p><b>【導入すべき機器】</b></p> <p>ベッドにセンサーマットを敷き込み入居者の情報を読み取り、詰所のPC上またはスマホでご利用者様状況が確認できる事で密の状態を極力作らない。また読み取った情報を記録する事ができる事でご利用者様のしっかりとした睡眠を確保する為の生活改善をおこなう事ができる。これが夜間帯の職員の労力軽減にもつながる事ができる。これら全てを網羅する眠りSCAN・眠りSCANeyeが望ましいと考える。また眠りSCANを使用するにあたりWi-Fi環境が必要なる。</p>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録している映像を振り返って確認できることで、夜間、ご利用者様の突発的な離床行動に対する職員の不安解消が期待される</li> <li>・ご利用者様の睡眠状況を確認できることで、ご利用者様の快適な睡眠を損なわない適切なタイミングでトイレ誘導が期待される</li> <li>・複数のナースコール呼び出しの際にご利用様の状態が映像で確認できるので優先順位を迷わず適切に対応できることが期待される</li> <li>・ご利用様の状態が映像で確認できるので夜勤時、離床センサーの寝返り等の誤報による不要な訪室を回避できる</li> </ul> <p>○2年目</p> <p>1年目と同じ効果が継続して期待できる</p> <p>○3年目</p> <p>1年目と同じ効果が継続して期待できる</p>

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	例) 介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等  職員に対して導入後アンケートを実施
------------------------------------	---

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人けやき		
事業所名	指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームなの花荘 【事業所番号：第 0673000352】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	60名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ・カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife [導入台数 10台] 生体センサー [導入台数 6台] ・スマートフォン（見守り支援機器と連動） [導入台数 13台] ・Wi-Fi アクセスポイント LAN 配線工事 [導入時期] 令和3年2月中		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有）	<p>・従来型特養は回路式の建物になっていて、死角が多く、また動線も長くなっているため、職員の身体的負担が大きい。</p> <p>・入居申請者については、認知症を有し危険予知ができず、一人で動くことはできるが、転倒するリスクが非常に高い介護度3の方が増えている。</p> <p>・現在、従来型特養入居者様の夜間の就寝時等における見守りについては、ナースコール連動（接続）型のセンサーベッド、離床センサー、マットセンサー等を使用しているが、当該見守り支援機器だと、センサー作動から職員の受動機器（PHS等）への着信に一定の時間差が生じるため事故防止につながらない場合もあつたり、センサー作動の度に訪室して状況確認をする必要があつたりする。そのため、夜勤時等の職員の負担が多い状況にあるとともに、入居者様への訪室、接触機会がおのずと多くなり感染リスクも高い現状にある。また、体動によるセンサーの作動であっても職員が訪室するため安眠の妨げにもなっている。さらに、事故発生時の検証は推測によるものとなりやすく、その後の事故対策が立てにくい状況にもある。</p> <p>この度購入整備を計画している見守り支援機器は、カメラ型で、センサー作動時には職員の所持するスマートフォンに即座に連動し、入居者様の状態をタイムリーに確認することができるため、入居者様の安全と安心の確保及び職員の負担軽減につながるとともに、入居者様への訪室と接触回数の減少につながり、感染リスクも低減できると考える。</p> <p>・当該支援機器の整備については、介護現場で業務に就く職員からの強い要望でもあり、サービスの質の向上と職員の負担軽減に寄与するものと考えている。</p>		

<p>達成すべき目標と導入すべき機器等</p>	<p>カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife の導入</p> <p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染リスクの低減</li> <li>・事故の減少</li> <li>・自立(律)支援</li> <li>・職員の身体的負担、精神的負担の軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の安定した生活の確保</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職者の低減、人材の確保</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不要な訪室の回避、接触機会の減少</li> </ul> <p>センサー作動時、画像で入居者様の状況を確認することで訪室が必要か判断することができる。不要に訪室しないことによって、入居者様の睡眠が確保できる。また、感染リスクの低減にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の予防と検証、事故件数の減少</li> </ul> <p>タイムリーな画像の確認やセンサー作動により、事故発生前に職員が駆けつけることができる。また事故発生時の動画を確認し、事故の検証を行うとともに適切に対策を講じることができる。また、必要な支援の見極めができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位の適切な判断</li> </ul> <p>センサーが同時に作動した時、画像で確認して判断することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良者等の早期発見</li> </ul> <p>生体センサーにより、呼吸や体動を捉え、生体異常に気づき、早期に対応することができる。ご家族様の安心にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の負担感・不安感の軽減、ストレスの軽減</li> </ul> <p>訪室しなくてもいつでも画像で確認できることにより、身体的負担が軽減できる。</p> <p>事故の減少や体調不良時の早期発見が可能になることによって、職員の精神的負担が軽減される。</p> <p>○2年目</p> <p>1年目のことが継続されることによって、入居者様が安全、安心に過ごせ、ご家族様の安心にもつながる。</p> <p>○3年目</p> <p>1年目のことが継続されることによって、離職者が減少し、人材が確保できる。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の活用状況については、入居者様のケース記録に記載して管理し、効果を検証する。</li> <li>・事故報告書によるデータの取りまとめにより効果の検証をする。</li> <li>・職員へのアンケートを実施し効果の検証をする。</li> </ul>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人けやき		
事業所名	ユニット型地域密着型特別養護老人ホームなの花荘 【事業所番号：第 0693000069】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	20名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	【製品名】 ・カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife [導入台数 6台] 生体センサー [導入台数 4台] ・スマートフォン（見守り支援機器と連動） [導入台数 7台] ・Wi-Fi アクセスポイント LAN 配線工事 【導入時期】 令和3年2月中		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>・夜間帯は、2ユニットを1人の職員で対応しているが、隣のユニットは全く見えないため、職員の精神的負担が大きい。</p> <p>・現在、ユニット型特養入居者様の夜間の就寝時等における見守りについては、ナースコール連動（接続）型のセンサーベッド、離床センサー、マットセンサー等を使用しているが、当該見守り支援機器だと、センサー作動から職員の受動機器（PHS等）への着信に一定の時間差が生じるため事故防止につながらない場合もあつたり、センサー作動の度に訪室して状況確認をする必要があつたりする。そのため、夜勤時等の職員の負担が多い状況にあるとともに、入居者様への訪室、接触機会がおのずと多くなり感染リスクも高い現状にある。また、体動によるセンサーの作動であっても職員が訪室するため安眠の妨げにもなっている。さらに、事故発生時の検証は推測によるものとなりやすく、その後の事故対策が立てにくい状況にもある。</p> <p>この度購入整備を計画している見守り支援機器は、カメラ型で、センサー作動時には職員の所持するスマートフォンに即座に連動し、入居者様の状態をタイムリーに確認することができるため、入居者様の安全と安心の確保及び職員の負担軽減につながるとともに、入居者様への訪室と接触回数の減少につながり、感染リスクも低減できると考える。</p> <p>・当該支援機器の整備については、介護現場で業務に就く職員からの強い要望でもあり、サービスの質の向上と職員の負担軽減に寄与するものと考えている。</p>		

<p>達成すべき目標と導入すべき機器等</p>	<p>カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife の導入</p> <p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染リスクの低減</li> <li>・事故の減少</li> <li>・自立(律)支援</li> <li>・職員の身体的負担、精神的負担の軽減</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の安定した生活の確保</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職者の低減、人材の確保</li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不要な訪室の回避、接触機会の減少</li> </ul> <p>センサー作動時、画像で入居者様の状況を確認することで訪室が必要か判断することができる。不要に訪室しないことによって、入居者様の睡眠が確保できる。また、感染リスクの低減にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の予防と検証、事故件数の減少</li> </ul> <p>タイムリーな画像の確認やセンサー作動により、事故発生前に職員が駆けつけることができる。また事故発生時の動画を確認し、事故の検証を行うとともに適切に対策を講じることができる。また、必要な支援の見極めができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優先順位の適切な判断</li> </ul> <p>センサーが同時に作動した時、画像で確認して判断することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良者等の早期発見</li> </ul> <p>生体センサーにより、呼吸や体動を捉え、生体異常に気付き、早期に対応することができる。ご家族様の安心にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の負担感・不安感の軽減、ストレスの軽減</li> </ul> <p>訪室しなくてもいつでも画像で確認できることにより、身体的負担が軽減できる。</p> <p>事故の減少や体調不良時の早期発見が可能になることによって、職員の精神的負担が軽減される。</p> <p>○2年目</p> <p>1年目のことが継続されることによって、入居者様が安全、安心に過ごせ、ご家族様の安心にもつながる。</p> <p>○3年目</p> <p>1年目のことが継続されることによって、離職者が減少し、人材が確保できる。</p>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の活用状況については、入居者様のケース記録に記載して管理し、効果を検証する。</li> <li>・事故報告書によるデータの取りまとめにより効果の検証をする。</li> <li>・職員へのアンケートを実施し効果の検証をする。</li> </ul>



## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人けやき		
事業所名	指定短期入所生活介護施設特別養護老人ホームなの花荘 【事業所番号：第 0673000287】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	24名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife [導入台数 5台]</li> <li>・スマートフォン（見守り支援機器と連動） [導入台数 5台]</li> <li>・Wi-Fi アクセスポイント LAN 配線工事</li> </ul> <p>[導入時期] 令和3年2月中</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>・ショートステイは、左右に長い建物となっていて、動線が長い。また夜勤帯は職員1人であり、センサーやナースコールが同時に作動するため、受動機器（PHS等）を2～3台持って対応しており、身体的、精神的負担が大きい。</p> <p>・在宅に近い居室環境の整備に努めているが、認知症を有した利用者様にとっては、環境の変化が与える影響は大きく、落ち着かないことも多く、事故のリスクも高い。</p> <p>・現在、ショートステイ利用者様の夜間の就寝時等における見守りについては、ナースコール連動（接続）型の離床センサー、マットセンサー等を使用しているが、当該見守り支援機器だと、センサー作動から職員の受動機器（PHS等）への着信に一定の時間差が生じるため事故防止につながらない場合もあつたり、センサー作動の度に訪室して状況確認をする必要があつたりする。そのため、夜勤時等の職員の負担が多い状況にあるとともに、利用者様への訪室、接触機会がおのずと多くなり感染リスクも高い現状にある。また、体動によるセンサーの作動であっても職員が訪室するため安眠の妨げにもなっている。さらに、事故発生時の検証は推測によるものとなりやすく、その後の事故対策が立てにくい状況にもある。</p> <p>この度購入整備を計画している見守り支援機器は、カメラ型で、センサー作動時には職員の所持するスマートフォンに即座に連動し、利用者様の状態をタイムリーに確認することができるため、利用者様の安全と安心の確保及び職員の負担軽減につながるのと同時に、利用者様への訪室と接触回数の減少につながり、感染リスクも低減できると考える。</p> <p>・当該支援機器の整備については、介護現場で業務に就く職員からの強い要望でもあり、サービスの質の向上と職員の負担軽減に寄与するものと考えている。</p>		

<p>達成すべき目標と導入すべき機器等</p>	<p>カメラ型見守り支援機器 A.I.Viewlife の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年）1年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染リスクの低減</li> <li>・事故の減少</li> <li>・自立(律)支援</li> <li>・職員の身体的負担、精神的負担の軽減</li> </ul> </li> <li>○2年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の安定した生活の確保</li> </ul> </li> <li>○3年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・離職者の低減、人材の確保</li> </ul> </li> </ul>
<p>期待される効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年）1年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・不要な訪室の回避、接触機会の減少</li> </ul> <p>センサー作動時、画像で利用者様の状況を確認することで訪室が必要か判断することができる。不要に訪室しないことによって、利用者様の睡眠が確保できる。また、感染リスクの低減にもつながる。</p> <li>・事故の予防と検証、事故件数の減少</li> <p>タイムリーな画像の確認やセンサー作動により、事故発生前に職員が駆けつけることができる。また事故発生時の動画を確認し、事故の検証を行うとともに適切に対策を講じることができる。また、必要な支援の見極めができる。</p> <li>・優先順位の適切な判断</li> <p>センサーが同時に作動した時、画像で確認して判断することができる。</p> <li>・職員の負担感・不安感の軽減、ストレスの軽減</li> <p>訪室しなくてもいつでも画像で確認できることにより、身体的負担が軽減できる。</p> <p>事故の減少や体調不良時の早期発見が可能になることによって、職員の精神的負担が軽減される。</p> </li></ul> <li>○2年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年目のことが継続されることによって、利用者様が安全、安心に過ごせ、ご家族様の安心にもつながる。</li> </ul> </li> <li>○3年目 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年目のことが継続されることによって、離職者が減少し、人材が確保できる。</li> </ul> </li>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の活用状況については、利用者様のケース記録に記載して管理し、効果を検証する。</li> <li>・事故報告書によるデータの取りまとめにより効果の検証をする。</li> <li>・職員へのアンケートを実施し効果の検証をする。</li> </ul>

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 豊裕会		
事業所名	六日町あいあい特別養護老人ホーム【事業所番号：0670101740】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	80名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 ナースコール連動型見守り機器 通信環境整備(WIFI) 【導入時期】 令和2年12月末日 【導入台数】 30台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	現在、利用者の見守り支援について離床センサー、立ち上がりセンサー等を使用し転倒滑落の未然防止を行っているが、その都度訪室することへの職員の業務負担軽減、夜間帯の少人数での業務負担軽減の必要性があり、この度、ナースコール連動型見守り機器を新規導入し、居室内に見守りカメラを設置し、介助が必要な時以外は訪室しなくとも安全確認ができる見守り支援を行い、職員の負担軽減を図っていきたい。要介護度3,4の方の転倒リスクが高いため、ナースコールに連動する見守りカメラ30台程度を導入し、未然防止策が徹底できるよう活用したい。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後(翌年)1年目 ・新しい機器の使い方の勉強会。 ・ご家族への説明とご理解を得る。 ・職員間で連携し、カメラ作動時の記録や様子を共有する。 ・新機種導入半年後に負担軽減の有無について聞き取りを行う。 ○2年目 ・ユニット内のパソコンとナースコール機器(スマホ型)を連動させ介護記録のパソコン管理化を推進し記録の業務時間削減を図る。 ・さらなる負担軽減の有無について聞き取りを行い不都合があれば施設内で検討していく。 ○3年目 ・新しい機器の使用に慣れ、有効活用が定着している。記録や事務的作業の負担が減り、利用者へ関わる時間が確保できている。		

<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な見守りの仕方を定着させ、「見張り、監視」にならない介護ができる。</li> <li>・万が一転倒などが起きた際も、カメラの記録から様子が読み取れ本人に合った再発防止策の策定に役立つ。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護記録を手書きからパソコン管理にでき負担軽減されている。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新機器を最大限に有効活用し、記録業務の時間削減ができ、利用者との時間が確保され見守りにも繋がり転倒リスクの削減にも繋がる。</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラ作動時の訪室回数、訪室した際の時間、直接・間接負担の軽減効果、満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等、総合的な情報収集を行う。</li> <li>・職員へのアンケートを作成し、導入前と導入後の変化を分析する。</li> <li>・必要以上に利用者の居室へ訪室しなくなることで利用者のプライバシーが尊重される生活空間となっているか、利用者、家族からも聞き取りを行う。</li> </ul>

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 松寿会		
事業所名	ユニット型特別養護老人ホーム長生園【事業所番号：0691200059】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	32名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名]</p> <p>○介護ロボットの製品（見守り・コミュニケーション支援） “眠りSCAN（パラマウントベッド）”</p> <p>○見守り機器の導入に伴う通信環境整備 “ワイヤレスアクセスポイントAP-9500”一式</p> <p>[導入時期] 令和3年2月1日 [導入台数] 5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有）	<p>入居者の日々の生活リズムは記録用紙を活用し把握している。また、眠りの浅い方や昼夜逆転している方の夜間の睡眠の把握にも巡視と記録用紙を活用している。そのため巡視回数も頻回になり、入居者の状況把握のはずが眠りの妨げになることもある。上記のように睡眠状況の観察記録が課題となっている。</p> <p>導入機種を活用により、夜間の睡眠状況を把握分析し、日中の生活支援の工夫により、入居者の良質な睡眠に導くことが可能と考える。</p> <p>現在、夜間の睡眠等の把握が必要な方は5名程度おり、5名の導入を考えている。また、その他の入居者についても定期的に睡眠状況を把握分析し、生活支援に結び付けることで、入居者の生活の質の向上ならびに介護の質の向上、介護業務の負担軽減と、入居者の健やかな生活が営めるようになることへの期待が職員内でも高まっている。</p> <p>上記の見守り・コミュニケーション支援ロボットを導入するにあたり、事業所内の通信環境を整える必要がある。現在、事業所内の通信は市販のWi-Fi環境のみで、入居者の各居室までの通信環境までは整っておらず、見守り・コミュニケーション支援ロボットを導入することはできない状況である。</p>		
達成すべき目標と導入施 べき機器等	<p>○導入後（翌年）1年目 睡眠のデータを活用した個別計画の作成と実施ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器使用研修会（取扱方法・データの分析方法など）</li> <li>・データ分析に基づくケアカンファレンス</li> <li>・実践と評価</li> </ul> <p>○2年目 全入居者の睡眠のデータを活用した個別計画の作成と実施・評価ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全入居者の睡眠状況把握ならびに良質な睡眠を促すためケアプランへの反映と実践・評価</li> </ul> <p>○3年目 入居者・家族等への実践報告ができる。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年目の実践の継続</li> <li>・ 事例報告会（家族会総会・職員会議等での発表）</li> </ul>
期待される効果等	<p>○導入後（翌年）1年目  入居者の睡眠を含む生活状態の把握により、日中の生活リズムを整えることを図り、健康維持や事故防止への効果が期待される。職員にとっても巡視以外の方法で入居者の生活状況を把握できることで、間接的な介護負担や記録の負担の軽減が図られる。</p> <p>○2年目  入居者の生活リズムの把握や、日中の活動性の向上が図られ、残存機能維持につながる。  見守り機器活用によるケア実践が、職員のスキルアップにつながる効果が期待される。</p> <p>○3年目  入居者や家族等への報告を行うことで、介護職員のケアに対する意識変化が図られる。  また、業務の改善が図られることで、入居者との関わる時間が増え、個別ケアに向けた取り組みができる。それに伴い離職防止と職員の確保が図られる。</p>
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	<p>介護時間の短縮、間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度、日々の活用状況が確認できる日誌等を用いるなど他の介護サービス事業者等の参考となるべき内容等の情報を収集し、介護機器に関して会議で検証する。</p> <p>評価指標に関しては、巡視回数や眠りスキャンからのデータ、職員へのアンケート（心理尺度等）によるデータから効果の検証を行なう。</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 松寿会		
事業所名	特別養護老人ホーム長生園【事業所番号：0671200145】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	68名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>【製品名】 ○介護ロボットの製品（見守り・コミュニケーション支援） “眠りSCAN（パラマウントベッド）” 【導入時期】 令和3年2月1日 【導入台数】 5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>① 昼夜逆転傾向の入所者が2名おり、日中の活動で覚醒を促す取り組みを行っているが、睡眠リズムの改善効果を可視化できず、主観的な評価しかできていない状況である。</p> <p>② 当フロアでは19時～翌朝6時45分までの間は職員が一人で対応している。見守り（着床）センサーの使用者が常時5名おり、特に夜間の入所者の衝動的な行動から転倒・転落事故が多い。現在使用中の見守りセンサーは姿勢を変えたり、床に足を着けた時に反応するタイプで、見守りセンサーが作動し職員の到着するまでの間に入所者が転倒してしまう。夜間の睡眠状況の把握が課題となっている。</p> <p>以上の点から5台の導入が望ましい。</p> <p>睡眠状況を把握できる見守り機器導入により、入所者の生活リズムの把握と日中の支援方法の検討と実施による一連の取り組みが、入所者の生活の質の向上となることで、職員の心身の負担軽減につながると考えられる。</p>		
達成すべき目標と導入すべき機器等	<p>○導入後（翌年）1年目 入所者の生活リズムを客観的に把握し支援することで、昼夜逆転を改善し夜間の安眠につなげ、日中の活動性を高めることができる。</p> <p>① 眠りSCANによるデータ蓄積と分析からの支援、評価の一連の支援方法をPDCAサイクル化できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器説明研修（データ分析方法、他介護施設での運用後の成功事例等：メーカー側に講師依頼）</li> <li>・睡眠の質向上に関する委員会の開催 マニュアル作成、事例検討方法、睡眠の質向上に関する研修</li> <li>・業務分析と睡眠データ分析による課題の抽出</li> <li>・課題解決に向けた取り組みと業務見直し</li> <li>・24時間シートへの反映</li> <li>・職員アンケート調査（導入前、導入後3ヵ月、6ヵ月、1年）</li> </ul> <p>○2年目 眠りSCAN活用による応用的使用の検討ができる。</p> <p>① 睡眠の質向上に向けた排泄ケアに関する勉強会の開催（各メーカ</p>		

	<p>一の講師を予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組み内容の発表 (目的、課題、検証、考察)</li> </ul> <p>② 新たな課題の抽出⇒分析⇒取り組み⇒評価</p> <p>○ 3年目</p> <p>眠りSCAN活用による応用的使用と評価ができる。</p> <p>① 睡眠の質向上に向けた高齢者の身体構造の理解や環境に関する勉強会の開催 (職員のスキルアップ研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組み内容の発表 (目的、課題、検証、考察)</li> </ul> <p>② 新たな課題の抽出⇒分析⇒取り組み⇒評価</p> <p>導入すべき機器は全て眠りSCAN</p>
<p>期待される効果等</p>	<p>○ 導入後 (翌年) 1年目</p> <p>① 昼夜逆転の課題が解決すれば、入所者のQOLの向上や介護職としてのスキルアップが期待される。</p> <p>② 入所者のベッドからの転落事故の減少</p> <p>③ 24時間シート作成にあたっての情報や入所者本人にとっての快適な暮らしを追求する上でのツールとして期待される。</p> <p>○ 2年目</p> <p>メーカーとの研修会、事例発表会を通じて、知識の習得、これまでの取り組みを振り返り、より高度な内容の取り組みにステップアップし、入所者のQOLの向上や介護職としてのスキルアップが期待される。</p> <p>○ 3年目</p> <p>睡眠の質向上の取り組みの成功事例から、職員が講師役になり、人材育成や職員のスキルアップに繋がることを期待できる。</p>
<p>効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<p>① 万歩計を用いて、導入前後の歩数計測により、巡視に要する職員負担の軽減に繋がっているかを可視化する。</p> <p>② アンケートによる職員の意識調査結果を元に導入前後の意見を可視化する。(定期的実施)</p> <p>③ ③取り組み実施前後の睡眠の質のデータの比較</p>



## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 松寿会		
事業所名	長生園指定短期入所生活介護事業所【事業所番号：0671200095】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護事業所	定員数	10名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 ○介護ロボットの製品（見守り・コミュニケーション支援） “眠りSCAN（パラマウントベッド）” [導入時期] 令和3年2月1日 [導入台数] 5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	<p>当事業所の短期入所は、ユニット型個室10床である。</p> <p>利用者は認知症の進行や精神状況等による昼夜の逆転、眠りが浅くトイレが頻回な方が常時2～3名利用されている。特に夜間帯の職員は併設のユニット型個室10名を合わせて20名の利用者に対し1名の配置となっている。利用者の巡視の回数も頻回で、何度か転倒事故も起きており、職員の精神的負担となっている。そのため睡眠状況の把握や記録方法に関しても課題がある。</p> <p>また、家族からの利用者の睡眠の相談や日中の生活についての相談を受けることも多く、具体的な睡眠への助言が課題となっている。</p> <p>導入機器を活用することにより、利用者の生活リズムや夜間の睡眠状況の把握から、支援方法を検討し個々に合わせた支援が可能となり、利用者の生活の質の向上と転倒事故の予防、併せて提供する介護の質の向上、介護負担軽減が期待される。</p> <p>導入台数は、常時必要な方及び、睡眠を含めた日中の生活リズム等の相談を受けている方を合わせて5台とする。</p>		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後（翌年）1年目 利用者の睡眠の課題を、家族や介護支援専門員と検討し、短期入所利用の個別援助に反映させることができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器使用についての研修を行い、使用方法の習得</li> <li>・職員の介護負担軽減（アンケート実施3か月に1回）</li> <li>・データの分析、実践・評価（3か月ごと）、次年度への目標設定</li> </ul> ○2年目 利用者の睡眠の課題を、家族や介護支援専門員と検討し、短期入所利用の個別援助へ反映させ、利用者の自宅での生活にも活用することができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠データと日中の生活状況の分析、実践・評価により、利用者の転倒事故等の減少ができる。</li> <li>・測定データを家族へ情報提供し、自宅での生活改善につなげることができる。</li> <li>・実践の継続、アンケート・評価（年度末）、次年度への目標設定</li> </ul> ○3年目		

	<p>眠りSCAN活用による応用的使用と評価ができ、実践の報告ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の継続、アンケート・評価（年度末）、次年度への目標設定</li> <li>・実践報告（報告は職員会議等で行い、各事業所と共有）</li> </ul> <p>※導入機器 「眠りSCAN」</p>
<p>期待される効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入後（翌年）1年目 利用者の睡眠状況を含む生活リズムや心身状況を分析、実践、評価から、生活リズムを改善し転倒事故減少と、職員の心理的な介護負担が期待される。</li> <li>○2年目 自宅と事業所での睡眠状況の比較から、利用者の生活状況全体把握やリスク回避につなげ、自宅での生活リズムの改善により家族介護者の介護負担の軽減が期待される。</li> <li>○3年目 利用者の生活リズム改善の支援や、業務改善により、家族介護者の心身の負担軽減や、介護職員の精神的ストレスの緩和と離職防止に効果が期待される。</li> </ul>
<p>効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）</p>	<p>事業所等の会議にて、職員へのアンケート結果や眠りSCANのデータから効果検証（単一事例実験法等）を行う。</p>

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人思恩会		
事業所名	特別養護老人ホームしおん荘	【事業所番号：067000384】	
介護サービスの種類	指定介護老人福祉施設	定員数	80
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】 まもる一の Station 5台（ソフトウェア・設置・設定費一式） 【導入時期】 令和3年1月10日 【導入台数】 5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース（契約期間 年 月～ 年 月）		
事業概要（現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有）	夜勤時の見守り体制の強化と職員の負担軽減・業務効率化・看取り時の迅速な対応・科学的根拠に基づく個別的ケアの実施を目的に導入予定。同時に、業務改善の実施による一体的なワークフロー及び運営面の見直しを行う。 複数製品のデモを行い意見を集約し選定した。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 夜勤時の見守り体制の強化 職員の負担軽減 <input type="radio"/> 2年目 業務の見直しによる効率化 看取り時の迅速な対応 <input type="radio"/> 3年目 科学的根拠に基づくケアの実施		
期待される効果等	<input type="radio"/> 導入後（翌年）1年目 夜勤時の職員の心身の負担を軽減 <input type="radio"/> 2年目 効率化による業務と職員配置の見直し 看取りケアの増加に対応 <input type="radio"/> 3年目 個別的な対応の強化		
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	夜間巡回時間の短縮・介護員の満足度・利用者や家族の満足度・常務体制の見直しによる運営の効率化・財務状況の改善		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人思恩会		
事業所名	湯野浜思恩園特定施設【事業所番号：0670701051】		
介護サービスの種類	特定施設入居者生活介護	定員数	50
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	<p>[製品名] まもる一の Station (ソフトウェア・設置・設定費一式) ✓</p> <p>[導入時期] 令和3年1月10日 [導入台数] 5台</p>		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入、リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員と の導入意義の共有)	<p>入居者の要支援・介護者の増加に伴う夜勤時の見守り体制強化、業務改善の実施による職員の負担軽減を目的に導入予定。</p> <p>複数製品のデモを実施し意見を集約、選定した。</p>		
達成すべき目標と導入施 べき機器等	<p>○導入後(翌年)1年目 夜勤時の見守り体制強化 職員の負担軽減</p> <p>○2年目 業務見直しによる効率化・適正化</p> <p>○3年目 個別ケアの強化</p>		
期待される効果等	<p>○導入後(翌年)1年目 夜勤職員の身体的・精神的負担の軽減</p> <p>○2年目 業務効率化による職員配置の見直し</p> <p>○3年目 個別ケアの強化</p>		
効果検証の方法(効果に関 するデータを客観的な評 価指標に基づいて記録)	<p>夜勤巡回時間の短縮、職員・利用者・家族の満足度、業務体制見直しによる業務改善</p>		

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	ライフケア黒森ユニット型指定短期入所生活介護事業所 【事業所番号：0670801752】		
介護サービスの種類	短期入所介護事業所	定員数	3名
〔 介護ロボットの製品名〕 〔 通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	【製品名】ND ソフトウェア (株) ベットセンサー バイタルビーツ 【導入時期】 令和2年12月 【導入台数】 3台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	<p><b>【現在の問題点】</b>          長期的な課題として、介護人材不足による介護職員の負担増がある。また、ご利用中の環境の変化に伴う心身の状態の変化も考えられ、限られた情報の中での介護サービスの提供で職員の不安や負担の軽減を図る必要がある。</p> <p><b>【導入台数の妥当性】</b>          短期入所事業所においては、可能な限り在宅での生活を意識したうえでサービスを利用していくことが求められており、サービス利用時の統一した環境整備を行っていくため、また初めての機器導入であり、職員への操作方法や機能の周知が図りやすく、機器を効果的に活用していくために3台の導入から開始する。</p> <p><b>【職員との導入意義の共有】</b>          会議や勉強会にて、導入目的やプライバシーへの配慮等について理解を深め情報共有したうえで導入を進めていく。</p>		
達成すべき目標と導入すべき機器等	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データの分析を行い、効果の検証を行う。</li> <li>ご家族やケアマネジャーに夜間の睡眠状態等について情報提供する。</li> <li>ICT、介護ロボット等に関する研修会の実施により、職員の理解を促進する。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記録をタイムリー且つ簡潔に行なうことができるよう、携帯用タブレットを購入する。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同法人内の入所系事業所へのベッドセンサーを導入する。取り組みをHPや広報にて外部に発信する。</li> </ul>		

<p>期待される効果等</p>	<p>○導入後（翌年）1年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体状態の急変時の早急な対応ができる。</li> <li>・夜間の睡眠状態の可視化から、適切な排泄誘導等が可能になり、安眠の確保に繋がる。</li> <li>・利用者の転倒のリスクを解消する。</li> <li>・職員の不安、負担の軽減が図られる。</li> </ul> <p>○2年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活パターンの把握により、介護へのアプローチに繋がる。</li> <li>・介護職員の負担軽減や介護技術や意識の向上に繋がる。</li> </ul> <p>○3年目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規入所の方や看取り期にある方を中心にベッドセンサーの活用を行ない、状態の把握が可能となる。</li> <li>・介護職員の離職防止に繋がる。</li> </ul>
<p>効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケート（精神的な負担の軽減の検証）やご利用者・ご家族への満足度調査で確認する。</li> <li>・事故報告書にて導入前後の件数を比較する。</li> </ul>

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	特別養護老人ホームさくらホーム広野【事業所番号：0670800911】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	80名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCANeye +通信環境整備 (wifi増強) [導入時期] 令和3年2月15日 [導入台数]40台 (2階のみ)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	①ユニット間の見守りが困難である。②ユニット内でも、居室同士が離れており、共有の廊下も直線ではなく、入り組んでおり、見守りが困難である。③2階の10部屋に関しては、エレベーター及び職員階段から離れており、2階ユニットへのアクセスが悪く、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを少し感じると答えた職員は、62.9%。眠り SCANeye 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、88.8%となった。以上の結果と上記の①～③から、2階4ユニット40床に対し、40台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後 (翌年) 1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCANeye40台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、画像で状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットを画像で検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCANeye の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCANeye 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	--



2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	短期入所生活介護事業所さくらホーム広野【事業所番号：0670800903】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	20名
( 介護ロボットの製品名 ) ( 通信環境整備の製品名 ) 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCANeye 通信環境整備 (wifi増強) [導入時期] 令和3年2月15日 [導入台数] 10台 (2階のみ)		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 <input type="radio"/> リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	①ユニット間の見守りが困難である。②ユニット内でも、居室同士が離れており、共有の廊下も直線ではなく、入り組んでおり、見守りが困難である。③2階の10部屋に関しては、エレベーター及び職員階段から離れており、2階ユニットへのアクセスが悪く、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを感じると答えた職員は、66.6%。眠り SCANeye 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、66.6%となった。以上の結果と上記の①～③から、2階1ユニット10床に対し、10台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後 (翌年) 1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCANeye10台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、画像で状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットを画像で検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCANeye の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCANeye 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	--

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	特別養護老人ホームさくらホーム【事業所番号：0673200259】		
介護サービスの種類	介護福祉施設サービス	定員数	80名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCANeye / [導入時期] 令和3年2月15日 [導入台数] 31台 (南棟のみ) Wi-Fi 環境整備 / [整備時期] 令和3年2月1日		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース(契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要(現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	①居室(1名、2名)の見守りが困難である。②居室同士が直線的な廊下でつながっているが、他の居室へのアクセスが悪く、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさを少し感じる、あるいはおおいに感じると答えた職員は、100.0%。眠り SCANeye 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、91.6%となった。以上の結果と上記の①～②から、31床に対し、31台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後(翌年)1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCANeye31台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、画像で状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットを画像で検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCANeye の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCANeye 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	--

## 2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	さくらホーム短期入所生活介護事業所 【事業所番号:0673200176】		
介護サービスの種類	短期入所生活介護	定員数	16名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 導入時期及び台数	[製品名] 眠り SCANeye 通信環境整備 (wifi管理) [導入時期] 令和3年2月15日 [導入台数] 16台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	<input checked="" type="radio"/> 購入 リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	①居室 (1名、2名) の見守りが困難である。②居室同士が直線的な廊下でつながっているが、他の居室へのアクセスが悪く、見守りが困難である。アンケートでは、構造上、見守りのしづらさをおおいに感じると答えた職員は、66.6%。眠り SCANeye 導入により、精神的なストレスが少し軽減、あるいは軽減されると答えた職員は、100.0%となった。以上の結果と上記の①～②から、16床に対し、16台の導入は妥当であり、導入することで、転倒やベッド転落事故の減少に寄与し、職員の見守り業務の負担軽減に大幅に貢献し、働きやすい職場づくりの推進につながり、職員の定着につながると考えられる。		
達成すべき目標と導入すべき機器等	○導入後 (翌年) 1年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ (眠り SCANeye16台導入) ○2年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ ○3年目 見守り業務の負担軽減と転倒・ベッド転落事故ゼロ		
期待される効果等	○導入後 (翌年) 1年目 ベッド上のご利用者様の起き上がり・離床が検知されると、画像で状態が瞬時にわかるため、より適切な介助の対応が可能となる。また、事故を防ぐためのヒヤリハットを画像で検証でき、事故ゼロが期待できる。困難な見守りからくるストレスの軽減が期待できる。 ○2年目 困難な見守りからくるストレスの軽減により、より心に余裕を持った介助ができようになり、職員のモチベーションが上がる。 ○3年目 眠り SCANeye の運用にも慣れ、ご利用者様の ADL に合わせた事故リスクマネジメントが可能になり、事故ゼロが期待できる。		

効果検証の方法(効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	眠り SCANeye 導入後、介護職員へのアンケートを実施。見守り業務の軽減効果（訪室への時間等）、転倒事故への怖れからくる日々の心理的ストレス軽減効果などについて、聞き取りをし、記録にまとめる。
------------------------------------	--